

「能登半島地震」対策ニュース

全国災対連 (災害被災者支援と災害対策改善を求める全国連絡会)
〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4 全労連会館4階 全労連内 TEL03-5842-5611 FAX03-5842-5620

2024年2月13日
NO. 3

被災地の一刻もはやい復旧を 各団体が支援行動を開始

能登半島地震から1ヵ月が経過しても、志賀市以北では断水が続いています。上下水道が復旧していないため、生活用水確保は喫緊の課題です。各団体は困難ななか現地への支援を開始しています。その取り組みを紹介します。

【全教】

能登半島地震被災地支援カンパ180万円を届ける

全教・教組共闘は能登半島地震被災地への支援カンパを呼びかけ2月9日、石川県庁に180万円を届けました。全教・教組共闘から宮下全教委委員長・教組共闘代表幹事と田中全教書記、石川県教職員の会から3人が参加し、石川県出納室長に手渡し懇談しました。全教・教組共闘から

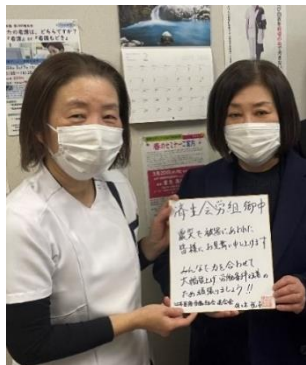


は、被災地の一刻も早い復興ととりわけ子どもたちが安全に安心して過ごせるよう願っていること、可能な限り今後も支援活動にとりくむことを伝えました。出納室長は、「1ヵ月経過して能登地域の学校が再開したが、上下水道や道路の復旧が進まず、特に生活用水が不足していて、いまだ多くの困難が強いられている」と話しました。また、全国からの義援金なども連日届き、どの部門にどのように活用するかを検討をすすめているとのことでした。その後、石川県労連を訪問し、被災地の現状と支援について懇談し、継続した支援の必要性を確認しました。

【日本医労連】

石川県医労連へ義援金を届ける ～七尾市内、金沢市内を激励訪問～

震災から1ヶ月となった2月1～2日、日本医労連の佐々木委員長と五十嵐中執は、石川県医労連へ義援金を届けるとともに被災地・七尾市内の加盟組織、全医労七尾支部・恵寿総合病院労組・愛育会松原労組七尾支部に支援物資を届け、金沢市内の単組・支部を激励訪問しました。



七尾市内の各単組・支部には、激励と共にペットボトルの水をはじめ携帯用簡易トイレ、ドライシャンプー、トイレットペーパー、紙コップなどを届けました。

金沢市内の加盟組織には、仲間の激励の声が寄せられた色紙を渡してきました。直接地震による被害の少なかった石川市内では、1.5次、2次避難者が身を寄せるなか、病院では5%増しの病床を確保するよう県からの指示を受け、職員はそ

の対応に追われているという状況でした。1.5次避難所として約1000人を受け入れている「いしかわ総合スポーツセンター」の近くに位置する済生会金沢病院では、全国から災害支援ナース100名、ドクター1名・薬剤師・事務職が入れ替わり支援に入り、被災関連の入院で約100件、初診で約50件を受けているとのことでした。病院の職員からは「症状が改善した後の対処、退院できるまで回復しても退院後避難所での生活に耐えられるとも思えない。2次避難所が開いているわけでもなく困っている」との現状が話されました。

(医労連 Mail NewsNo.64 2月5日)

【自治労連】

今後の本格的派遣に向けて、吹田市労連が視察とボランティア活動

大阪自治労連吹田市労連は、現地の状況を確認しながらボランティア派遣に向けて準備をすすめてきました。1月2日から石川県七尾市内に拠点を構えて活動している「災害NGO結(ゆい)」から、受け入れが可能との連絡を受け、市労連は役員と書記の計4名を派遣しました。



1月26日夜に吹田市役所を出発し、27日朝に七尾市へ到着、避難所の小学校体育館で作業や住民の自動車取り出しなどに参加しました。午前中は市労連の4名もボランティア活動に参加し、体育館の入り口の増設作業として通路に屋根を設置する作業、住宅の駐車場から自動車を救出する(取り出す)作業、墨付け、木材の切断やねじ止めなどの作業を行いました。

車の救出には持ち主も参加し10名で重機やチェーンソーも使いながら作業し、つぶれた屋根と周囲に積もった雪を除雪、約800枚の瓦を再利用できるように移動させながら、車を動かせる状態を目指しました。ジャッキで梁を上げ、車を救出できた時は自然と拍手がわき起こりました。吹田市労連では今回のボランティア派遣の報告会を2月16日に開催します。次回は2月22日夜に吹田を出発し、24日夜に帰着の日程で検討をしています。

<参加者の感想>

●活動は半日でしたが被災地の状況を見て、初めて会った方々と力を合わせ作業し、被災された方から喜ばれて、参加して良かったと思いました。ですが、障害のある方や小さなお子さん連れ、ペット連れの方などが避難所に居られなくなっていることや、このままだと災害関連死が増えるだろうということを聞き、暗澹とした気持ちにもなりました。まだまだ先は長いと思いますが自分のできる事を考えて長い支援を続けていきたいです。

●朝の朝礼で印象に残った言葉は、現地の人たちはボランティアの方からの支援は断りにくい立場にあるため、支援(善意)を押し付けないように活動してほしいという旨の注意喚起でした。帰る前に「結」代表の前原さんは、「行政と民間が協力し、お互いの強みを生かせばより多くの被災者を救うことが出来る。今後も支援は団体であればいつでも受け入れる。現地での活動をより多くの人に知って欲しい」と述べられました。

自治労連速報72号(2月9日)

【全建総連】

被災者「家を見てもらって安心した」能登町で応急修理(ブルーシート展張)実施

全建総連は2月1日、県を通じ能登町から協力要請のあった災害家屋の応急修理(ブルーシート展張)を実施し、石川県連と合わせて8人が参加しました。能登町役場から、1300件の応急修理依頼があり、日々増えているのが現状です。3軒の応急修理依頼を受け、5人1チームで現場に向かいました。被災された家主からは、「町からは申し込みが多くシート張り実施まで結構時間がかかると言わ

れていて不安だったが、今日、職人さんに家を見てもらい、『問題
ないですよ』と言われてホッとした」と、安どの声をかけていただき
ました。参加した仲間からは、「午後から雪と風が強くなり3軒
しかできなかったが、第2回以降につながる経験ができた。今後も



人を集めて実施したい」「雨が入らない対策で
喜んでもらえた。被災者の方々は、職人さんと
話ができると安心できるのではないか。少しでも、お役に立てる活動をしていき
たい」と語っていました。



また、全建総連の中西委員長は石川県連を訪問し、松本会長に支援金の目録を
手渡し「61万人の仲間がいるので、遠慮なく要望を言ってほしい」と激励しまし
ました。

全建総連ニュース NO.9 (2月2日)

【保団連】

石川協会被災会員への訪問と、今後の計画等を確認

保団連は2月1日「令和6年能登半島地震 第4回災害
対策本部会議」を開催しました。石川協会など被災3県
と保団連からの役員・事務局長などが出席しました。現
在までの活動状況の確認と今後の対策等について協議し
ました。竹田会長をはじめ新体制で復旧復興に全力をあ
げることを確認しました。石川協会の工藤事務局長は



「断水の状況・回復の見通しをあわせて考えると当分は
金沢から日帰り可能な地域に訪問先を区分し、こまめに訪問していくことになる」と説明しました。

今後は、石川協会の被災会の被災した会員への訪問行動等を具体化するため、日々変化する復旧事
情等を考慮のうえ、各協会・医会に協力を求めるとし、当面、救援行動への事務局派遣計画、派遣事
務局員の宿泊先や移手段（タクシーチャーター等）の確保等を進め、石川協会の工藤事務局長と相
談の上準備していくことを確認しました。

保団連 能登半島地震救援ニュース 第10号 (2月7日)

以上

